

「フランクリン自伝」を薦める

白鷗大学法学部教授

蔡柱國

ベンジャミン・フランクリンは、アメリカ合衆国の独立に力を注がれた元勲的な人物であると、同時に「稻妻は電気と同一性」である科学的発見をなした科学者であることも一般に良く知られている。だが彼の幼少時の貧しい生い立ち、彼がいかに悪い環境を克服し、他人より数倍に勤勉、節制を通じて自分の学識を充実し、品德を磨き、事業に成功したことは、それほど知られていない様である。

実は私が故郷台湾にいた高校時代に、「フランクリン自伝」（中文版）にはじめて接することが出来ました。その時に著者の人生に対する明確な理念、学問に対する情熱と物事に対する冷静、適切な取り組み方、その成功の物語に、心を強く打たれた。以来この本は自分の愛読書の一冊になり、重宝してきた。その本は、故郷の本棚に置いてきたままであるが、現在手元にあるのは、来日後新たに求めた日本語版の「岩波文庫」の一冊である。諸君にも是非読んでみることをお薦めしたい。

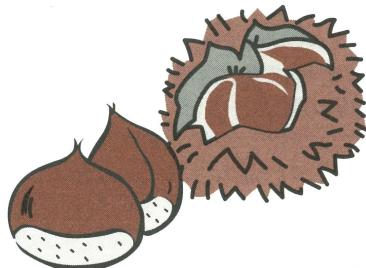
フランクリン自身の説明によると、彼は本来イギリスからアメリカのボストンへ移住した二代目の移民である。家庭が貧しく、生活のため、8才から2年間ほどのラテン語の学校教育を受けたあと、10才頃から父親の蠟燭、石鹼を製造する仕事を暫く手伝う。その後実兄の印刷所で5年間ほど奉公したが、17才で出生地を離れて、単身でフィラデルフィアへ行き、印刷工場で働くようになった。ここから更に色んな迂回曲折、困難と努力を経て、ついに自ら印刷工場を開き、成功への道を切り開いたのである。

彼は13才の時から時事小唄を作り、それを売り歩いた経験がある。また、社会問題に关心をもち、時々青年の教育や火災消防、及び植民地

の義勇軍と宗教、哲学等の問題に関する自分の考えを、新聞やパンフレットを通じて発表していた。読書や思索が好きで、奉公時代から同じ学問好きの仲間に呼びかけ、「ジヤント・クラブ」（読書クラブ）を作り、会員同士の書籍を一箇所に持ち寄せて、会員の共同利用に供していた。会員は各自で勉強する以外、毎週一度一堂に集まり、順番で倫理、政治と自然科学分野の問題を提起し、議論する。更に三ヶ月置きに開催する会員報告会では、各自でまとめた論文を発表し、互いに議論、批評する。しかも確実、かつ円満に実行することを期し、罰則を定めた会則まで用意していた。このように会員同士の学問の向上、真理の探究を目指していたのである。

正規の学校教育を受ける機会には恵まれていなかったが、学問に対する情熱の火は半端ではなかった。読書の時間を多く確保する為、昼休みの片刻の時間をも惜しみ、昼食は良く仕事場でパン一切れ、レイゼン一つまみと水で済ませた。そのような努力の甲斐があって、早くから社会科学、自然科学に関する学識を身につけることが出来たと思われる。その他、語学への造詣も深く、フランス語、イタリア語とスペイン語にも堪能であった。

学問の充実ばかりでなく、フランクリンは個



人の道徳的完成も、頗る重要であると認識していたが、一般の人に完璧な善を為し、すべての悪を避けることを期待するのは至難の技であるので、そこで自分のこの弱点を対応すると共に、所期の目標を実現するため、フランクリンは「徳目」を「節制、沈黙、規律、決断、節約、勤勉、誠実、正義、中庸、清潔、平静、純潔、謙虚」の13項目に整合、集約し、一定期間内に、どれか一つに注意集中して実行することを決め、その徳を修得できてから、ほかの徳に移る。このようにして「13徳」を、次々に自分の生活習慣になるように努めた。更にこれを確実に実現するため、手帳に曜日ごとの実行度合いを記録し、改善と努力のポイントにし、ついに所期の目標をすべて達成することが出来たのである。

フランクリンは良い環境に恵まれなかつたが、人生に対し常に前向き、自信と努力の姿勢で対応し、自分の工夫により学識を充実し、立派な人格を形成し、判断能力を養うことが出来た。これらが事業に成功した所以であると思われる。後日彼の思想と行動は人々に信頼され、社会に對する貢献も高く評価された。フランクリンの社会活動の主なものを挙げると、アメリカ数州の洲会の代表を兼ね、領主と交渉する活動、市議員、州議員やアメリカ郵政長官を担当、ペンシルヴェニア大学の設立に奔走、アメリカ独立

宣言の起草に参画、対英講和会議代表、使節としてフランス、スウェーデン、イギリスと外交交渉や条約調印に活躍。学術面では、アメリカ学術協会初代会長、イギリス学士院会員に選ばれ、セント・アンドルース大学や、オックスフォード大学から学位が贈られている。

フランクリンは自伝の前半において、ご子息に自分の生涯の努力と経験を伝える中に、「自分の勤勉ぶりを事こまかに、また無遠慮に述べ立てるのは、自慢話をしているように聞こえもしうが、そうではなくて、私の子孫でこれを読む者に、この物語全体を通して勤勉の徳がどのように私に幸いしたかを見て、この効用を悟ってもらいたいからである」と語り、言葉の中にこの自伝を残した心遣いとその目的を如実に言い表している。

事实上この自伝がその後のアメリカの資本主義の発展、社会の改良に大きな影響を与え、青少年に有益な人生航路の指針になったことは、先賢の方々から多くの賛辞を受けている。私たちもきっとこの成功の物語から勉学や人生に有益な示唆を汲み取り、自信と勇気が得られる確信し、あえて諸君にお薦めする次第である。(ご参考に、現在「フランクリン自伝」は「岩波書店」から、岩波文庫版が出されている他、「学生社」からは新書版体(英語版)がある。)

「日本語の風景」

白鷗大学経営学部助教授

藤井信之

最近講義室に電子辞書を持参する学生が散見される。それまでは留学生が講義中に出てくる日本語の意味を確認するために使っていたようであるが、それが一般の学生にも広がりを見せている。この件についてはいろいろなご意見があろうかと思うが、私個人としてそれはある意味良い傾向ととらえている。私の学生時代には電子辞書はまだ発売されておらず、重い英和や独和などの辞典を家から持ってきていた。その辞書の薄いページをめくりながら目的の箇所に到達する苦労は私にもわかる。偉い先生は「その行為が君の知識を広げていくことになるのだよ」と言られた。たしかに目的の箇所だけでなく周辺の部分もつい読んでしまうことが多かった。まあこれは時間のある学生時代の特権であるかもしれない。確かに知人の優秀な先生は今もそう学生に言っておられるようだ。しかし最近は

処理すべき仕事をたくさんかかえるとそうも言つていられない。世の中はスピードが求められている。学生諸君にしても日々の溢れる情報をいかに取捨選択するか、どう時間配分するか大変だろう。電子辞書は単語を入れれば即座に表示される。辞書(をひくのが)嫌いの学生諸君に支持されるのも無理はない。数社から製品が発売されたころ、知人のご子息が使っているのを見て早速購入して使ってみたが、これがとても具合がよい。翻訳をしていて英和で引いた単語の訳語がしっくりこないとき、国語辞典や類語辞典に切り替えて使えるのが良かった。また机上のわずかなスペースを占有するだけなのも魅力的である。携帯可能で鞄に一台入れておくだけでいつでも、どこでも確認することができるのも便利この上ないものだ。

ところで我が国の国語は非常に単語の多い言

語のひとつではないだろうか。先人が作ってきた膨大な言葉の集積を私たちはいったいどのくらい使っているのだろうか。またその言葉の意味や成り立ちをどのぐらい知っているものであろうか。例えば「秋」という季節を表す会意文字があるが、この文字の意味するところご存じだろうか。「立秋」「晚秋」「麦秋」(学生諸君、意味わかりますか？初級問題です)「秋陰」「秋影」(「影」の意味を理解していないとこの内容は正反対になりますね)「秋怨」「秋河」(天の川)など。「秋娘」(なんとなくわかりそう)その他「秋波」や「千秋楽」などもよく使われる言葉だが元の意味はあまりよく知らなかったりする。私の専門から言えば「秋に担う」(収穫物を肩にのせて産地から消費地に売りにいくことの意味)ことから「あきなう」という語ができているらしい。実りの秋の情景が目に浮かぶ。「商う」の「商」もいろいろと意味があり重要な語である。我が国の「市」という語の登場も『魏志倭人伝』に求められる。(詳細については流通論の最初の講義でふれているのでここでは書かない)

調べ始めると止まらなくなるのが私の悪い癖である。通勤途中に車窓から見られる刈り取りを待つ稻が黄金色に輝いているのを見ると、やっぱり日本は「瑞穂(ミズホ)」(みずみずしい稻の穂)の国だなあと考える。最近では年配の方

か国文の学生ぐらいしかわからないだろうと思う。「豊葦原の中つ国」「豊葦原の瑞穂の国」いずれも日本の美称である。こうなると「日本書紀」「古事記」を読まないと気がすまない。以前なら図書館や書店に駆け込んだりするが、最近は行動パターンが変わり、図書館や書店に行く前にインターネットで調べることにしている。世の中にはお節介の人がたくさんいるもので自らのホームページで事細かに説明をしてくれている。とても便利な時代になった。

学生時代は海外旅行でアメリカだ！ヨーロッパだ！と騒いでいた時もあった。「外へ外へ」と関心が向かいがちであったが、年とともに「内へ内へ」と方向が変わってきた。「ヨーロッパも良いけど、やっぱり京都・奈良だな」「京都も良いけど世俗化してしまったので青丹よしの奈良だね」ということになった。日本人としてのDNAを再確認する段階に入ったのか定かではないが、思うに「大人としての国語」というものに目覚めたことは確かである。すでに中年の域に入って久しい私だが、知らない=「若気の至り」というエクスキューズではすまなくなつたということもあるだろう。知らない=「恥」という意識が日に日に強くなっている。そのことが現在の日本・日本語に対する私の姿勢を形成させる大きな力となっていると感じている。

■ ■ ■ 図書館ニュース ■ ■ ■

● ● 卒業後も図書館を利用することができます ● ●

- ◆ 入館の際に、カウンターにて利用申請の手続きをしてください。
必要書類：身分を証明する物または利用証
- ◆ 本学を卒業または修了された方に、館外貸出を行っております。手続きには、利用証が必要です。一般図書（「館内」「禁帶出」ラベルが貼付されているものを除く）は、3冊まで14日間の貸出を行っています。

★利用証を発行するには…

| | |
|------|-------------------------------|
| 必要書類 | 卒業（修了）証明書 および現在の氏名・住所を確認できるもの |
| 有効期限 | 年度末（3月31日）まで ※毎年度更新 |

～ 卒業後も図書館を有効活用してください～

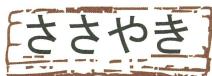


新着図書 ピックアップ

| | | | |
|------------|--|---|--|
| 007.5/TSU | 「ググる」 津田大介著 每日コミュニケーションズ | Y57/IT 「保育者のための手遊び歌あそび60」 伊藤嘉子編著 音楽之友社 | |
| 130/WI | 「クマのプーさんの哲学」 ジョン・T・ウイリアムズ著、小田島龍志、小田島則子訳 河出書房新社 | 389.04/MI 「人類学的出会いの発見」 宮永國子著 世界思想社 | |
| N18/ON | 「日本海と竹島」 大西俊輝著 東洋出版 | 491.42/SA 「アミノ酸の科学」 櫻庭雅文著 講談社 | |
| 281.08/NI/ | 「私の履歴書—経済人」 日本経済新聞社 | 498.39/TA 「聴覚刺激で頭の回転が驚くほど速くなる」 田中孝顕著 きこ書房 | |
| ♥—————♥ | | ▲—————▲ | |
| 302.25/YA | 「21世紀のインド人」 山田和著 平凡社 | 491.37/NO 「考える脳・考えない脳」 信原幸弘 講談社 | |
| 318.1/TA | 「市町村条例クリニック」 田島信成、高久泰文共著 ぎょうせい | 514/SU 「道路行政失敗の本質」 杉田聰著 平凡社 | |
| 323.14/NA | 「密かに誤訳された憲法第九条」 永松鶴喜著 新風舎 | 596/HE 「おいしい自炊生活」 編集工房桃庵編 池田書店 | |
| 335.1/HA | 「現代企業の経営行動」 白鷗大学ビジネス開発研究所 白桃書房 | 673.8/UN 「なぜ人はショッピングモールが大好きなのか」 パコ・アンダーヒル著、鈴木主税訳 早川書房 | |
| ♥—————♥ | | ▲—————▲ | |
| 335.2/HI | 「シャープを創った男」 平野隆彰著 日経BP社 | E/KA 「まんじゅうこわい」 川端誠〔著〕 クレヨンハウス | |
| K94/HI | 「「ブランド」の考え方」 知的財産総合研究所編、広瀬義州他著 中央経済社 | 810.7/HA 「自己表現の技法」 畠山浩昭〔ほか〕著 実教出版 | |
| 361.4/NI | 「木を見る西洋人森を見る東洋人」 リチャード・E・ニスペット著、村本由紀子訳 ダイヤモンド社 | 933/RO/ 「ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団」 J.K.ローリング作、松岡佑子訳 静山社 | |
| KS/SA | 「ひきこもり文化論」 斎藤環著 紀伊國屋書店 | P/212 「おねぼうチュピ」 わしあとしこ作、土田義晴画 教育画劇 | |

利用者の方に少しでも利用しやすい環境を作るため、館内1・2階に投書箱を設置しています。

図書館に関するご意見やご希望をお聞かせください。



平成16年10月30日 発行
 編集団 図書館だより編集委員会
 発行 白鷗大学総合図書館
 〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
 (0285)22-9737 (直通)
 ホームページ <http://www.hakuoh.ac.jp>
 印刷 株式会社尚文堂印刷所